さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

ＩＣＴ活用 授業一緒に

都留文科大付属小、島田小

都留・都留文科大付属小と上野原・島田小は、ビデオ会議システムを使ったオンラインでの遠隔合同授業を行っている。本年度、４年生同士が総合的な学習の時間や理科の授業で３回実施。離れた場所にいながら、共通の課題に対して感想を言い合うことを通じて、人数が少なく関係性や意見が固定化するという小規模校のデメリット解消を目指している。〈赤池悠〉

小規模校の課題解決探る

全校児童は、付属小が36人、島田小が66人。互いに小規模校が抱える課題の解決を模索する中、島田小の校長と教頭が、ともに付属小に勤務していた経験があったことから、昨年7月ごろに合同授業を持ちかけた。

情報通信技術（ＩＣＴ）機器を活用した教育について詳しい都留文科大の吉岡卓准教授らの協力も受けながら、夏休み中から調整を開始。11月に3回合同授業を行った。初回は総合的な学習の時間を活用して、プログラミングについて学習。その後は、実験を通じた意見交換がしやすい単元として理科を選び、熱の伝わり方について2回授業を実施した。

両校によると、共通の学習用ソフトを導入していることもあり、タブレット端末上で感想や意見の共有ができる利点もある。一方で、付属小の4年担任の小坂文則教諭(58)によると、温度変化を測定する実験器具が異なる時もあったといい、「同じ結果が導き出されても、アプローチが違うことで、多様な考え、多様な思考への広がりが生まれる可能性がある」と語る。

両校は今後も調整を図りながら、取り組みを継続したい考え。同小の原田晋太郎さんは「画面越しに意見を発表するのは緊張するけど、自分たちの中では出なかった意見が島田小の児童から出てくることもあって、楽しい」と話していた。

（2024 年 1 月 17 日付 山梨日日新聞 16 面）

問1 都留文科大付属小と上野原・島田小は、なにを使った授業を行っていますか。

問2 この取り組みは、小規模校の、どのようなデメリット解消のために行っていますか。

問3 両校ともに、共通の学習用ソフトを導入していることで、どのような利点がありますか。

問4 あなたなら、どのような学校と、どのような授業をしてみたいですか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.